

第4回 松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会

日時：令和5年1月27日（金）10時～12時

場所：佐賀市役所 議会第4会議室

出席者：【委員】

一般財団法人佐賀市観光協会	牛島 英人
佐賀県 総務部	甲斐 直美
佐賀県 文化・観光局	實松 尊徳
佐嘉神社	佐野 安正
佐賀市	白井 誠
佐賀鍋島伝承遺産顕彰会	中尾 清一郎
国立大学法人佐賀大学 全学教育機構	中尾 友香梨
公益財団法人鍋島報効会	鍋島 直晶

●事務局

間もなく懇話会を始めさせていただきます。携帯電話につきましては、マナーモードに設定いただきますようお願いいたします。御発言の際には御手元のマイクをご使用いただきますようお願いいたします。おそれいりますが委員長以外は、ボタンがございますので、押していただいでての発言をよろしくをお願いいたします。なお本日の懇話会は、記録のために録音、録画をさせていただきます。あらかじめ御了承ください。

それでは定刻になりましたので、「第4回松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会」を開催します。進行を務めますただし地域振興部 歴史・文化課の小林と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

それではまず、会の成立について御報告いたします。本懇話会は、懇話会設置要綱におきまして、委員の過半数が出席しなければ開くことが出来ないと定めております。本日は9名中8名の委員さんに御出席いただいでておりますので、この会議は成立いたしますことを御報告いたします。

次に会議の公開についてですが、本市が設置している審議会等につきましては原則公開としております。本日の懇話会につきましても公開ということで傍聴を認め、資料や委員の御発言などは後日、市のホームページなどで公開いたしますのでよろしくお願いいたします。それでは次に地域振興部長の宮崎から皆様に御挨拶を申し上げます。

●宮崎部長

皆様おはようございます。佐賀市地域振興部の宮崎でございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今週は10年に1回という寒波に見舞われました。雪は想定よりは少なかったのかなって感じはしますけれども、気温がかなり低かったということで、日中でも佐賀市の平野部でも、昼間の気温が氷点下とか、なかなか経験

しないような寒さだったかなと思っています。唐津市のあたりでは、水道管が凍結して漏水したというニュースもあっていましたけれど、皆様は影響がなかったでしょうか。しばらくは寒さが続くようですので、体調面も含めてお気を付けいただければと思います。

前回、懇話会は8月に開催をしておりますけれども、そのときはスクリーンのほうに、公園周辺の地図を投影して松原公園全体計画区域の整備について意見をいただいたところがございます。その中で、松原公園周辺へのアクセス、徴古館と神社間で自由に往来できるようになどといった意見があったと記憶しております。

令和3年8月から開催してきましたこの懇話会ですけれども、いよいよ大詰めというところに来ております。予定では、本日と次回この2回で、松原公園周辺の将来像を取りまとめしていくということになります。本日はこれまでに皆様からいただいた御意見を踏まえまして最終のゴールに向かう準備段階になってくるかと思っています。将来像の取りまとめた後の動きというのを予定ではありますけれども少し説明をしてみますので、そのことも意識をしながら議論をしていただければと思います。

話は変わりますけれども、SAGA2024国スポ全障スポまで2年を切ったというところで、いよいよ今年からは、本番会場でのリハーサル大会というのが始まってまいります。それに合わせて、整備をされているSAGAサンライズパーク、アリーナ、あるいは佐賀駅周辺整備、そういったことが最近非常に話題として出ているなど。昨日もアリーナの引渡しがあったということでそういった話題が多くなっていて、どちらかという佐賀駅北側の話なのかなと思うけれど、松原公園周辺も、いわゆる佐賀駅南のほうで今後ですが、松原公園周辺整備の将来像というか、どういった整備をしていくかということはある程度具体的に変わった段階では、市民や県民の皆様へ情報発信をしていく必要があるかなというふうに思っているところがございます。そのためにも今日ここにお集まりの関係者の皆様でしっかりと将来ビジョンを共有していくということが大事になってくるかと思っていますので、これまで同様、今日も活発な意見交換がなされますようお願いいたします。私からの挨拶といたします。どうぞよろしく願いいたします。

●事務局

それでは次第3に入ります。ここから懇話会設置要綱第3条第4項の規定により、牛島座長に進行をお願いしたいと思います。牛島座長よろしく願いいたします。

●牛島座長

それではしばらくの間私のほうが座長として進行進めますので、皆さんご協力のほどよろしく願いいたします。最初に事務局のほうに資料の確認をお願いしたいと思いますけれども、確認の上、説明のほうに入っていきたいと思っています。

●事務局

今回準備しております資料は、次第のほか、資料1-1。こちらは前回お配りした資料と変わっておりませんが、懇話会の中における今後の協議イメージということで、今年度のロードマップといった形になっています。

資料1-2。こちらは今回初めて出す資料になりますけれども、懇話会が終わりました後、こ

の将来像をもとにどういった整備をしていくかというような年度の計画となっております。資料 2 については、松原公園の整備イメージの共有、資料 3 が将来像の素案となっております。以上の資料で今回御説明をさせていただきたいと思っております。

●牛島座長

ありがとうございました。それでは次第に沿って進めてまいります。最初に事務局のほうから今後の進め方について説明をお願いいたします。

●事務局

皆さんおはようございます。歴史・文化課の野田と申します。

私のほうからは、次第 3 の「今後の進め方について」ということで、御手元の資料 1-1、1-2、こちらをもって説明をさせていただきます。よろしくをお願いいたします。まず資料 1-1 のほうを御覧いただければと思います。

懇話会の今後の協議イメージということで、昨年 8 月に開催いたしました前回 3 回目の懇話会では、エリアの中核として位置づける松原公園の整備について、1 回目 2 回目の議論を踏まえつつ、より具体的な整備イメージをまとめるということで多くの御意見をいただいたところでございます。

中ほどちょっと下、第 4 回目ですけれども、松原公園の具体的な整備イメージの共有、それから整備手法等について意見交換の予定にしておりましたけれども、前回御意見がありました、城内、柳町、そういったところとの連携なども含めまして、もう少し広い範囲での議論も踏まえたくて、お示しをできればというふうに考えているところでございます。そこで本日ですが先ほどもありました将来像の取りまとめに向けまして、後ほど別の資料で説明をさせていただきますが素案を準備しておりますので、委員の皆様からの御意見を数多くいただければというふうに思っております。そのうえで第 5 回、次回は将来像の案ということでこちらのほうからお示しをしまして、御確認いただければというふうに考えているところです。

資料の一番下、松原公園周辺の将来像として示し、下のほうに矢印を向けて、今後の施策・事業展開というふうに記載をしております。取りまとめた将来像につきましては、今後の施策、あるいは事業展開していくに当たっての基本的な考え方といいたしめようか、ベース、指針そういうふうなものとして、活かしていきたいと考えているところでございます。

資料 1-2 のほうに移ります。こちらは今後の予定、それから基本的なスキームということでお示しをしております。上半分、今年度令和 4 年度に将来像取りまとめと整備イメージの共有ということで、その下令和 5 年度は、松原公園整備イメージを具体化して、基本構想のようなものを策定したいというふうに思っております。こちらのほうは市が中心となりまして、全体の調整、関係者の皆様との個別の協議などを行いながら、ここに白丸で四つ掲げております

○検討会議の設置

○内容の具体化

○関係者との協議調整

○整備のやり方手法、どこが整備を主体となってやるのか、財源等、事業化の検討というような項目について、コンサル等にも入っていただきながら進めていきたいというふうに思っております。

その下になりますが、その後基本計画の策定、あるいはその設計等を行いまして、工事に着手できればというふうな流れで考えているところでございます。繰り返しになりますが、こうした事業展開に当たりましては、この懇話会で取りまとめていただく将来像をしっかりと意識をしまして、かつ、関係者との連携についても密にとりながら実施していきたいというふうに考えているところでございます。

下半分、基本的なスキームということでお示しをしております。鍋島報効会、それから佐嘉神社、佐賀県、佐賀市、それぞれ役割的なものをお示ししております。佐賀市は先ほども述べました全体の調整、第1期整備の際の手法であります借地公園、この手法とりますとしたら土地の借受けは佐賀市で行う。あるいは外構等の整備、前回は御意見出ました松原川等の周辺環境整備、こういったところも市の役割として考えております。

また、鍋島報効会、佐嘉神社につきましては、先ほど借地公園の場合は土地のほうをお貸しいただく。それから施設整備の検討と書いてあります賑わいをこの辺りに生み出すような施設整備等ということで話が進んでいきますと、そういったものの検討ということもお願いできればというふうに思っております。佐賀県には県有地の活用についての検討もお願いをできればというふうに考えております。この資料につきましては昨年12月に、市議会の総務委員研究会におきましても、松原公園整備の経過報告ということをした際に、一部になりますけどこちらの資料をもって説明をさせていただいております。

それから最後に合わせて議会関係でひとつ御報告と申しましょうか、11月の議会におきまして、松原公園整備について一般質問が議員からございました。この懇話会での議論の内容、あるいは懇話会の中でも中尾友香梨委員から御紹介いただいております観願荘について言及をされまして、大名庭園の考え方を取り入れてはどうかといった趣旨の質問でございました。これに対しまして、特に庭園の考え方を取り入れることについてということで、今後の整備において庭園をそのまま再現というのは面積的にもかなり難しいものがございます。ただ、名前の由来となった考え方や引き継がれてきた歴史文化を今の生活の様式あるいは社会活動、経済活動と結びつけていくような視点は大切にすべきであろうというふうな形で、執行部のほうとしては答弁をさせていただいたところでございます。私からは以上になります。

●牛島座長

事務局のほうから説明をしていただきましたけども、委員の皆様から御質問や御意見等あれば受けたいと思います。今回4回目ということで、今後の施策・事業展開を意識しながらということで、今後の予定についても、資料1-2で皆様にお示しをしたところだというふうに理解をしております。

●白井委員

市議会でもこの松原公園をどうしていくのか非常に興味を大きくお持ちでありまして、

長年市議会の中でも議論が定期的になされておりました、特に今回動き始めているということもあって、議員さんの中で関心を持たれている方が質問をされたということでございました。

中尾友香梨委員の本を読まれて、観頤荘というのは面積的にもかなり大きいものでありまして、それをそっくりここで再現するといったら難しいことがあるけれど、観頤荘というのは「観」は見る、「頤」は養う。観に来てくれた方々、おいでいただいた方々がいろんな思いでもって体験をそこでされて、最終的には何かを感じて、何か身につけてもらって、そして帰っていただきたい。こういう公園をつくる側の立場としては、今でも同じ想いであって、そういう観頤荘という名前のイメージといいますか由来となったところについては、私たちもしっかりと体現していきたいというふうなお答えをしたところでした。しっかりとやってもらいたいという市議会のほうでも期待感が大きくあつての質問だったので、それに私たちも応えていきたいと思っていますところです。

●中尾清一郎委員

今の白井委員のお話はこの松原公園にかつての大名庭園や、城下町の佇まいを再現したほうが良いという考えから、中尾先生の御著書にもある観頤荘の話が広がっていったと思うけれど、観頤荘自体はあくまで佐賀城の南西部にある鬼丸地区にあったものなので、観頤荘のイメージを念頭に置かれてこの整備計画を議論することは悪くはないと思うけれど、あたかも観頤荘がこの松原公園にあったようなミスリードがないように、ぜひお願いしたいということと、私は企業人なので物事の優先順位をつけるのが仕事だと思っておりますから、この松原公園周辺の整備事業の目に見える形として市民が期待されているのは、いわゆる松原マーケットのようなものが町の真ん中に今も残っていて、繁盛している肉まん屋とその前の廃屋のようなテキスタイルの店を何とかすることによって、この公園の本来の形が動いているというのがアピールになると思うので、そこをどうするかを何とかオブラートに包んだまま議論しても余り意味がないんじゃないかというふうに何回かの議論の中で思っております。以上です。

●白井委員

御意見いただきましてありがとうございます。私たちも同じように思っています、特に大名庭園はそこで再現するのはどうかという考えはないかみたいなことを質問されましたが、私は「観頤荘というのはもともと鬼丸とか違うところにあったものでもありますし、そこにそれを再現するのは難しいかもしれないけれど、この懇話会の中で議論しているものは、ここに訪れた人が佐賀鍋島藩のすばらしい歴史とか文化に触れて、隣接する松原神社佐嘉神社の神域で何か心表れるようなそういう思いを感じたりして、身も心を養われて成長していくような、佐賀市民にとってのそういう場所に市民にとっての拠り所・心の拠り所、伝統と品格を兼ね備えたそういう誇れる場所になっていったらいいかなと思っています。」とお答えしたところです。これについては、そういう御理解をしていただけたのかなと思っております。

●牛島座長

ありがとうございました。実際に答弁された白井委員、その説明を受けて中尾(清)委員からの御意見がありました。観願荘というものを復活させるというのではなくて場所も違いますし、大きさも違いますし、また時代も違うということで、ただその頃のいろいろな感じ方考え方、今とこれからにとってどういうふうなことで考えているというところで意見交換ができたと思っております。ほかに何か御意見や御質問等あればと思っておりますがいかがでしょうか。

●佐野委員

佐嘉神社の佐野です。このようなすばらしい計画を見させていただきましたけど、馬鹿の一つ覚えのように私はずっと去年から言っておりますが、今年が佐嘉神社の御創建が90年という一つの節目の大きな年を迎えます。そうすると10年後の令和15年が御創建100年ということで、これもう度々皆様方にもお話をしているけれども、この90年というのを一つの契機としまして、今度はその100年に向けての大きな奉賛事業、これは御創建50年事業のときに佐嘉神社記念館というのが建てられておまして、それに見合うと言ったら変ですけども何か大きな100年としての事業を行うということで今考えております。そして今年、90年を一つの契機としてその奉賛会の立ち上げをしようということで今計画をしております。秋の10月の日峯さんが佐嘉神社の例祭でございまして、今年は式年90年という大きな祭りをさせていただく予定になっておりますので、それに合わせて奉賛会を立ち上げるという予定で進めておるところであります。そのときには佐嘉神社としてどういふことを奉賛事業としてやるのか、ある程度そのときには決めておくというストーリーで、今準備会というのを立ち上げてまして、みんなで話し合いをしているという段階です。

去年の年末に市の御担当の皆様方とそれから御当主と報効会の皆さんと、佐嘉神社の裏を一緒に歩かしていただいたけれど、佐嘉神社としてはこういうことをしたいと思っておりますよと、奥がこんなに汚いのできれいにしようと思っておりますとか、そういうところを一緒に見ていただいた。我々としてはまだ確定は何もしていませんけれど、今の佐嘉神社の姿で、もちろん御本殿自体が変わることはありませんけれど、社務所ですとかいろんな部分が新しく変わっていく可能性がすごく大きいです。というところで考えますと、それが令和15年に100年だから、そこで事業が始まって工事が始まってそしてその年のうちに終わるという感覚ではなく、こういう大きな事業になりますと、どの神社さんもそうですけども、第1期・第2期・第3期というような形で工事をいろいろ分けまして、10年かけていろんなことをやって100年の奉賛事業とするというようなことになろうかと思っております。そういう形で進めていこうかと思っておりますので、今後の予定のところで見ますと令和8年度から松原公園の整備工事が一応予定としてあげていただいておりますけれども、その辺りからもしかすると、第1期工事が佐嘉神社のほうで始まる可能性があります。まだ何も決まっていないので何も申し上げることは出来ませんが、そういうところがあるというところで、出来ましたら佐嘉神社の奉賛事業も念頭に、我々もこの松原公園の整備というのを念頭に置きながら佐嘉神社の整備をどうしていくか、上手くリンクをさせていただければありがたいかなど。個別にそれぞれが何か行うというのではなく、せっかくならば公園とし

てこういうことをする。それに見合うような社務所の建て方をしようとか、そこはやめておいて、こっちのほうのことをやろうというような、お互いにももちろんそれは佐嘉神社でやることですが、上手くリンクをさせてやりながら事業としてやることができればと思ったところでございます。

●鍋島委員

御報告も兼ねてでございますけれども、報効会としては懇話会を1年以上、市役所のほうで始めてくださって継続をしてくださっているということで、感謝以外の何物でもないけれども、頭のところでもう1年以上前に申し上げたかもしれませんが非常に小さい財団法人でございます。我が家や当家の相続等々で財団自体の文化財の保有状況というのが、平成になりましてから非常に大きく変わりました。そういうものを一括して、管理管轄していかなくてはならない。それだけでもうちの財団の規模からすると、非常に重荷な状態を何とかかんとかやっていって、個人的には投げ出してしまっただけで、実松さんあと頼むよ、みたいな。なかなかそうもいかない。どういうふうにしていけばいいのか、できることはやらなくてはという中でここまで来まして、徴古館という建物の趣も助けてなのか、せつかくそこまで来たならば周りもきれいになったらさぞよろしかりょうなという中で、こういうお話につながってきている。そういう中で、懇話会を契機として非常にありがたかったのは、佐嘉神社さんお隣同士、宮司のお人柄、人徳によるところが大きいかと思うけれども非常に胸襟を開いていただいて、一緒に考えていく、本来のお隣同士、本来の縁というものがこの1、2年の間懇話会の皆さんの存在が助けてだと思えますけれどもしっかり出来た。佐野委員からもありましたけれどもいろいろとリンクして、協調してやっていこうじゃないかというのが、私どもの間にも生まれたというのは本当にありがたく思っています。

佐嘉神社では、100年に向けていろいろ考えておられるということで、まだ表に出せないで今京都にあるけれども、佐嘉神社創建当時の図面群というのが全部で150数枚あって、あまり状態がよくないので、先週そのうちの50枚ほどを京都のほうへ運んで、皆さんに見ていただける状態に取りあえずしていただくという作業を始めております。旧別格官幣社を佐賀で初めてつくってこの仕組み自体もございませんけれども、そのオリジナルの図面と思しきものがたまたま徴古館の倉庫の中にあって、90年ぶりに開けてみたらこんなふうにしてつくったんだと。宮司さんとお話ししていたのは、100年に向けて手をかける前に、一度こういうものもあるのであれば皆さんとそういうものも共有しながら、当初どういう姿だったのかなということをしっかり見定めるといえるのは大切なことではないかなと。その上でこれからどうなっていくっていうのをもう一度考えるいいタイミングかなということで、そんな作業もさせていただいて、今のところ私どものほうにも建築関係や神社仏閣の専門はおりません。佐賀大学さんのほうにお願いをして、後藤先生や三島先生らとまずはお目通しをいただいて、建築学的にどういうものであるのかというような御評価をいただくような手はずを今お願いしていて、そんなところからまただんだんそういう資料もいろんな意味で役に立てばなと思っています。

最後になるんですけれども、そういう中で今後、まちづくり的に将来像的にこのエリアが

どうなっていけばいいのかという理想像を皆さん方と一緒に考えさせていただく場なのかなど、懇話会を私自身はとらえておりますけれども、そういう中で神社とは何ぞやと、佐嘉神社 100 年って言っているけれども、宮司がよく口癖みたいに言われるのは、とは言いながら、松原神社のほうが古いんですよと。

龍造寺さんも入っておられるんですよ、と。そういう部分で松原神社の参道もこれから手がけていこうと。お気づきになった方もおられるかとは思いますが、佐賀市さんと私どもで連携をさせていただいて、角の緑地のところに歩道を施してみようではないかとか、本当に少しずつ少しずつですけれども、そういう中で徴古館って何ぞやと、私正直申し上げてこういうお話の中に、青天の霹靂のごとく観頤荘というものが出たときはちょっと戸惑いを隠し切れなかったところが正直あるけれど、実は中尾先生が調査をされた資料の一部というのも、先ほど申し上げた図面と同じように徴古館の中にあった。私どものところに今、全部で何点あるのか数えたこともありませんけれど、2万何件、そういう数字になると思うんですが、なかなか全部で何と何があるんですか、説明しろと言われても簡単な話ではない中で、先生も今まで我々自体も気がつかなかったような部分というのを掘り起こしていただいている。今回もたまたま神社のことがあって、そういう図面をお出しするようなことができ、これからもまだそういうことが。徴古館って、博物館の展示施設としては、さほどの機能は持ってないけれども、このお話の中で県の實松局長から、文書関係であるとか文書館であるとか、まだ個人の考えということでしたけれども文書関係から恐らく郷土資料的なもの、こういうものの位置づけを高めていかなきゃいけないとか。史学をさわっておられる方たちの中で、昭和 50 年 60 年平成になる間に、いわゆる文献資料と器物資料というものの扱いが大きく変転をしてきておられるのかなと、私ごとながらには思っているけれども、文献資料とそれからまだ本当にさわっていない器物資料を含めて、徴古館というのはアーカイブしているところなのかなど。アーカイブが日本語で何と言ったらいいかわからないですけど、そういう機能のある徴古館。同じようなものの精神的な部分をやっぱりアーカイブしている神社。そういうものの機能というものを皆さんにほどよく御理解をさせていただいたうえで、それらの機能がこれからも町のためにあるべきだという御賛同があれば、それを取り囲む環境としていかなる状況が理想像なのかというのを皆さんと共有できることができれば、そこに在る者としては、これは恐らく宮司も一緒だと思いますけれど、非常にありがたい話でございますし、今は私と宮司が仲よくなったぐらいの話ですけれども、近隣近縁というのが風通し良く、最初は人のつながりだと思いますので、そこから人の動き・人の流れ・集いというような部分含めて、行政の皆さんと理想を皆さんの知恵を絞っていただけるのは非常にありがたいこと。そういうものの中で私たちもしっかり目的を見定めて活動していくことができれば、少し地域のお役に立てる部分も増えてくるのではないかなと期待をいたしております。すいません長くなりましたけれどもこんなふうに考えております。

●牛島座長

ありがとうございました。

●中尾友香梨委員

今日何度か、観頤荘の話が出まして大変うれしく存じております。議会で一般質問が出たのは、恐らく江頭議員からだったかと思います。私はその議員と全く面識がないわけですが、1度だけ問合せを受けたことがあります。

きっかけは今年、佐賀新聞に「論壇佐賀」で寄稿させていただいたことがあります。その新聞記事をお読みになって、ずっと前から松原公園周辺の整備について関心があり、ちょうど大名庭園とイメージが重なる部分があったのでということで問合せを受けました。それで議会で質問をされたのではないかなと思います。議会の中継は拝見しておりませんので申し訳ございません。今日教えていただきました。ありがとうございます。

観頤荘ですけれども先ほども先生方がおっしゃったように、確かに実際に庭園があった場所は、鬼丸、赤松町です。松原公園周辺にあったわけではないですけれども、先ほど白井委員がおっしゃったように精神は同じだと思います。実際、歴代藩主たちは、観頤荘という大名庭園を非常に重要視しておりまして、庭園自体が存在したのは非常に短かく8年余りでした。9年未満です。ほぼ幻のような存在だったけれども、その庭園を造った第三代藩主綱茂公時代から、歴代藩主は皆この庭園を非常に重要視しています。既に解体されてなくなったにもかかわらず、綱茂公がお書きになった「観頤荘記」という書物を藩主たちが読み続けていた。代表的なのが五代藩主の宗茂公のとき。宗茂公は神代家に養子に出されていました。藩主の座に着く前、葉隠れを口述した山本常朝から、将来藩主になったときのための教育を内々に受けていたようです。その一環として、読まないといけない書物として挙げられていたのが「観頤荘記」です。つまり藩主になるに当たって、必ずこれは教養としてまず読んでおくべきテキストとして認識されていたようです。

八代藩主の治茂公の時代ですけれども、松原神社をつくって松原一帯を開発したのがまさにこの八代目の治茂公です。そのときはもちろん観頤荘がすっかり姿を消して、ほぼ何もない状態ですけれども、名称もその一帯は十五茶屋というふうに名称が変わってきています。観頤荘という名前すら残っていない時代ですけれども、治茂公は依然としてその一帯を観頤荘と呼んでいます。御自分の私文の中でも、その一帯を観頤荘と呼んでいる。治茂公にとって、あの一帯は既に家臣の屋敷地に貸したにもかかわらず、観頤荘という精神は残して継承していくべきだという考えがあったのではないかというふうに私は理解しております。十代藩主の直正公の時代になってからも、直正公も依然としてそこを観頤荘として理解して受け止めている。

このような事例から見ましても歴代の藩主たちにとって観頤荘というのはやっぱり特別なもので、先ほど白井委員がおっしゃったように「観頤」というのは「養うところを見る」という意味ですが、藩主つまり政治を行う人としては、市民、藩士や民を養うことを観頤荘の中で学ぶという考えをお持ちであったようです。ですが今、観頤荘がかつてあったということ自体ほとんど知られていないし、すっかりもう忘れ去られているので、せっかく公園として整備するのであればどこか観頤荘の精神を復活させてもいいのではないかということをも「論壇佐賀」で書かせていただきました。そのことで江頭議員が一般質問されたのかと思

います。

確かに場所は全然違うけれども公園として整備するのであれば、観頤荘の精神は少しでもいいのでそこで再現させたらどうかという提案を以前からさせていただいているところです。ちょっと長くなりましたが以上です。ありがとうございました。

●牛島座長

ありがとうございました。観頤荘といいますか、議会での関心のあったことに関しての議論を中心に進めてまいりました。今、中尾委員のほうからお話があった想いというものを頭において、ということになるかと思えます。

事務局のほうから説明いただきました今後の進め方につきましては、大体こういうイメージを持っているということで皆様御承知いただいたということで進めてよろしいでしょうか。

それでは続けてまいりたいと思えます。次第4 意見交換ということになります。

松原公園周辺の将来像の取りまとめについてということで、事務局のほうから説明をお願いしたいと思います。

●事務局

資料2をお願いいたします。今回はこの図面をもとに、松原公園の整備について御意見を伺いたいというふうに考えております。前回の懇話会の御指摘の中に、先ほども説明いたしましたけれども公園整備を考えると、もう少し周りも見渡しながらかえていくべきではないかという指摘がありました。ですので、この図面上で前回までにいただいた御意見を振り返りながら意見交換をさせていただきたいというふうに思います。

まず、松原エリアの整備を考えますときには繰り返しになりますが、周りどう動線を繋いでいくかということが重要になってくるかという御意見が多かったかと思えます。それを赤の点線で2本をお示ししております。

そして左上からの横の線、こちらは松原川通りから新馬場、柳町につながる路線が松原を起点とした東西の基本線、散策の基本線なるのではないかと思います。

松原から本丸まで、こちらも皆さんから前回いろいろ御意見をいただきましたけれども、外苑駐車場の中には、沿路も準備していただいておりますので、そこを通過して万部島の西から本丸に向かうルート、こちらもその南北の基本線になるかと思えます。この東西と南北の路線を意識しながら、松原公園整備を考えることも重要な視点であるかというふうな御意見があったかと思えます。

そういった議論視点を持ちつつですけれども、松原公園のエリア内をどうしていこうかというふうに考えるときに図面の右下の青色で囲っております文字をお示しておりますけれども、こちらが松原公園内の整備に求めることとして、前回皆さんからいただいた御意見ということでまとめております。

1点目。徴古館から東西、松原神社の東西の軸だけではなく、貫通道路から松原川通りの南北の路線を意識して整備を考えるべきではという御意見。

2点目。鍋島報効会、神社、県、市、4者が佐賀の意義深い歴史、それぞれに担ってきた

という経緯がございますので、連携をして公開・活用したり、学べる場所になることで、人の周遊が生まれるのではないかという御意見もあったかと思えます。

3点目。整備に当たっては、やはり松原川の水辺。このエリアの重要な歴史的景観をどう活かしていくか。神社さんと徴古館からの自由な往来ができるような設え。先ほど中尾(清)委員からもありましたけれど、仲見世、賑わい等をどう創出していくかということもいただいた御意見かと思えます。公園内の賑わいの施設もあったほうがやはり魅力が増すのではないかというようなご意見が多かったかと思えます。

以上が前回いただいた御意見として受け止めておりますが、今回追加または新たにこの図面を見ながら御議論いただければと思っております。

引き続き資料3で、将来像の説明までさせていただいてから、まとめて意見交換ができればと思えます。資料3をお願いします。

それでは資料3の説明をさせていただきます。資料の上のほうを青枠で囲っております。こちらは沿革と環境の変化ということで、こちらについてはこれまでの懇話会で御説明させていただいておりますし、皆様も御承知のことと思えますけれども、松原公園周辺というのは、松原神社があって、弘道館もあって、銅像園があったり、佐賀図書館があったり、現在の徴古館、昭和8年には別格官幣社として佐嘉神社創建されております。

平成に入ってから松原川整備事業があって、平成23年に松原公園が開設されたというような流れになっております。

環境の変化としては、4核構想で「佐嘉神社・徴古館地区」、南北軸で「歴史・文化・芸術の拠点エリア」としてこのエリアがなっているという、県や市のまちづくりの位置づけですけれども、直近でいくとNHK佐賀放送会館の移転、くすかぜ広場がARKSとしてオープンしたり、こころざしのもりが整備されたり、そういった変化がございました。これらの周辺の変化を踏まえまして、将来像を取りまとめていきたいというふうに考えております。基本理念というところですが、こちらについてはこれまでの御意見を参考に素案として書いているものになります。4つございまして、

1つ目は、松原一帯というのは江戸時代からの歴史の変遷を経て、松原神社、そして佐嘉神社、徴古館等があり、佐賀の歴史文化の象徴となる意義深い場所、重要な場所というところで書いております。

もう一つは先ほど説明にありましたけれども、現在におきましてはSAGAサンライズパークからの南北軸の動線上にもあって、まちなか中心市街地と城内を結ぶ重要な位置にもある、まさに「歴史」と「まち」をつなぐ場所ということ。

3点目ですけれども、前回の懇話会では、神社と徴古館の間スペースに何かを当て込むような形になって話がずれたり、そういったこともございました。核となる松原神社、佐嘉神社、そして徴古館、その周辺の松原川や楠の緑と、またその歴史的な景観の維持向上に取り組んで、佐賀の人々がこの場所を誇りに思って、未来に後世にしっかりと継承していけるような場所ということで書いております。

前回鍋島理事長が言われましたけれども、組織の垣根を越えて、神社、鍋島報効会、佐賀

県、佐賀市が連携することで、ここを起点とした周辺との回遊を創り出せる場所へということで、4点目を書いております。

これを踏まえて将来像を取りまとめるという部分ですけども、将来像というところで、『 』あえて空欄にしております。このところを皆様に、今回揉んでいただきたいと考えておりますけれども、その下にキーセンテンスを書いております。

歴史と風格を感じさせる空間／鍋島家の伝統と品格／アイデンティティの確立／佐賀を象徴するエリア／歴史の継承／安らぎと癒しの空間／その他これまでの懇話会で出たことも書いておまして、キーワードとなる部分を赤字で書いております。さらに意見を出していただいて、5回目でこの将来像として示せばなと考えているところです。

最後に基本事業と書いております。これまでの御意見をもとに、今考えられる事業として幾つか書いておりますけれども、

松原川の環境整備。こちらは夜が暗いといった御意見が前から出ておりました。新馬場通りの整備、松原神社参道としての整備と書いておりますけれども、こちらは今現在取り組んでいるところでございます。

神社エリア再整備、佐嘉神社創建 100 年に向けて先ほど佐野宮司から御説明いただきましたけれども、創建 100 年の奉賛事業と公園の整備の連携。報効会や神社が保有する貴重な歴史資料の公開・活用。松原一帯の歴史の周知啓発。周辺との周遊・回遊ルートの構築というところで書いております。

こういったことを事業としながら次回までに取りまとめる将来像に近づけていければなと考えているところでございます。説明は以上です。

●牛島座長

ありがとうございました。事務局のほうから説明をしていただきましたが、ここからは松原公園周辺の将来像の取りまとめということで今の資料を御覧いただき、意見交換、議論を進めていきたいと思っております。御意見のある方、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

今回は4回目ということで、5回目に、松原公園州の将来像を取りまとめる。冒頭の説明でもありましたが、今後の予定、進め方ということの前提になってくると思っております。特にこの将来像の『 』空欄になっておりますけれども、その辺りを皆さんの御意見を取りまとめていって、ここを将来像ということで、広く、皆さんほかの市民を含めてお伝えするというのも、次のステップに進む上で大切ではなからうかと感じているところです。

●白井委員

こういった懇話会がたちあがったのも、県で実施いただきました明治維新 150 年で 1 年間継続して事業をやっていただいて、市民・県民の意識が高まったと思う。その中で一方では駅の北にサンライズパークが再整備、アリーナができるということで、北には大きなスポーツ・カルチャー・エンターテインメントと言ったようなランドマークができた。同じくらいの距離を駅から南に行くと、佐賀城本丸歴史館があつたり佐賀の歴史・文化・学び・芸術といったものを表現するようなランドマークがございます。

佐賀駅を中心とした北約 1.5 キロのサンライズパークと南約 1.5 キロの佐賀城公園を非常に対比して大事な場所としてクローズアップされ、佐賀市としてもその間を結ぶ動線を大事にして、これからもどんどん強くしていきたいと思っています。

基本理念の中にも書いていますし、環境の変化にも書いていますけれども、その中で北側サンライズパークの鍵の引渡しがあったと昨日のニュースでございましたけれど、注目をされると同時に、今度は反射的に南のほうもすごく大事になってきて、松原公園はまさに一番重要なところにあるということ、市民・県民の方にも市としてアピールをしていきたいと思ひ、そういう中で ARKS が出来た。佐嘉神社さんが 100 年を迎えようとしていて、というタイムリーなことがこのエリアでも起こりつつありますので、市としても将来像をどんなふうにつけていくのか、アピールする中でも一番大事なポイントと思ひます。ぜひ、これからあと 1 回、2 回とありますけれどもその中で議論させていただければと思ひます。

●牛島座長

説明の補足ということで御意見をいただきました。

●鍋島委員

そのまた補足みたいな。わたし個人としては、草刈りというのはみんなでやれば怖くないというような暮らしをしておりまして、地域でも、地域・市であるとか文化財であるとか、すべからく関連の皆さんと協調共有連携しながらおやりになれば、さらによろしいのではないかなと思ひます。大したことは出来ないですけども、一つ御報告というか御紹介というか。佐野宮司のほうから 100 年に向けて神社も宮司さんが代替わりをされた後、報効会で徴古館のほうで一度いろいろと古いものがごちゃごちゃとあるので見て調べてくださいというような話が昨年ぐらいにあって、本丸歴史館にご相談申し上げて、うちの学芸員と一度調査を、調査といっても状況確認ですけど、そのときに蔵の中から押入れの中まで、神社に装備されているもろもろの備品・部品等も含めて、まず現状をとらえるべきではないかという作業をして、今のところは現場の御判断でできる範疇で時間のあるときにというような形でやっていたらいい。

釈迦に説法でございますけれども、壊れてしまった時とか無くなってしまった時、石でもかけて文字が読めなくなってしまった時に、やはり記録があるのとないのが本当に大きな違いになるから、そういう作業は 100 年 200 年先を見据えてやっておけばいいのではないかなというふうな意識を共有しながら、現場でも、できるだけ関係の方たちとは情報を共有しようじゃないか。実はお気づきになった方おられるかな。たばこ屋さんがうちと神社の間に長年あって、昨日取壊しをされて、神社との間の景色が一気に変わりました。実はもうあと 10 数件残すような形になって、そろそろきちんとした大義名分があれば、残していく部分については合理性を持ったお話をしながら、私ども地主としては対応していくべきかなと思ひます。

現場だけじゃなく市民・県民の皆さんと共有されるべき、神社なんかは特にそうだと思います。そういう意識をしっかりと反映した将来像を皆さんに御提案というか、御提起いた

けるとありがたいところでございます。

●牛島座長

ありがとうございます。他に御意見ないでしょうか。

●中尾友香梨委員

以前にも発言させていただいたことがございますけれども、江戸時代の大名庭園というのはそもそも枯山水のような静かな空間ではなく、まさに経済活動が活発に行われる活気づいた場所でした。実際佐賀城下にあった観頤荘もそうでした。中には茶屋もありましたし、料理屋とか、お店とかいろんなものが大名庭園の中にもありました。

この場所をどういうふうに形づくっていくか、これから具体的な議論になっていくかと思いますが、まず一つコンセプトは必要かなと思います。そうする中で大名庭園は庭園だから、ただただ静かな場所という誤解がないようにということをお願いしたいと思います。庭園であっても大名庭園は、中で経済活動も行われていましたし、神社仏閣も備わっていました。それに加えて観頤荘の場合は鬼丸聖堂もありました。聖堂は学校のかわりの役割を果たしていたわけです。それが後ほど聖堂になっていくわけですが、大名庭園というのは本当に今の「まち」と非常に近い感覚の存在であったということをお願いしたいと思います。参考までに申し上げます。以上です。ありがとうございます。

●牛島座長

ありがとうございました。

●甲斐委員

意見というか感想ですけども、冒頭の挨拶にありましたアリーナの引き渡しがございます、これからまだいろいろと整備、周辺や内部の整備をしているけども、佐賀駅からアリーナまで歩くようなことでいろいろ佐賀市さんと協力させていただいています。

佐賀県全体、「歩こう。佐賀県。」ということでやっておりますので、この1、2月の水曜日と日曜日のまるっとフリーDAYというバスの企画は好評をいただいております、結構遠方から佐賀駅バスセンターまで来られて、さてどこに行こうかと、すごく足を伸ばしてくださる方がいました。また、先日ありましたフィンランドフェアでは、佐賀駅南のほうからARKSまでいろんな催しがあって、本当に歩く人が増えてきているなというのを感じましたし、バスも満員だったり乗車できなかつたりというくらい賑わっていて人々が歩こう、町を巡ろうという雰囲気が出来てきているのではないかなと思います。

そうした中で、この松原公園が歴史、私たち明治維新150年をやったけれど、それで終わりではなくて、皆さんの心にまだ残っているしこれからもずっと歴史を感じながら、誇りを感じながら、というところで住民の皆さんにそういったものを持っていただきたいと思っております。「そうだ、あそこに行ってみよう」とか「寄って見たら面白かった」とか、たまたま寄って見たら中尾先生がおっしゃったように歴史が感じられる場所だったということで楽しかったとか、そういうところになっていけばいいというのは改めて思いました。県有地のことでこういったことで活用策をとることがございましたら、何か一緒にできることがあるのかなと思いつつ、県として何か持ち合わせているわけではないですけ

れども、そういったところと一緒に考えていきたいなと思いました。

●牛島座長

感想・御意見ありがとうございます。お話にあったようにつないでいくといえますか、共有するというふうなところで、ちょうど皆様の資料 2 にもありますけども、南側の特徴と言ったときに、この松原エリア一体とその南のほうの本丸歴史館のところ、そしてそれがつながっていく南北、そして松原神社からの東西の新馬場というふうなところ、そういう部分の連携も非常に重要じゃないかなと思います。いわゆる一帯を一体化するといえますか、そういった部分でも、市並びに県といった立場を超えて、つなぐのは歴史であり、人でもあるかなというふうな感じはあります。その点で座長として発言するのはどうかというような気もしますが、資料 3 の基本理念のところにありますけども、2 つ目の「現代においては SAGA サンライズパークからの南北軸の動線上にあり、また、まちなかの城内と結ぶ重要な位置にあり、まさに「歴史」と「まち」をつなぐ場所」というところで、今の感想の分ではまさにこの部分になるだろうと思いますし、これに少し加えるならば、人と思いをつないでいくということで、中尾先生が言われたような観頤荘の精神というふうなところも、その一つになるのかなというふうな気がします。

●實松委員

将来像のことについて今お話がありましたので一言だけ。この懇話会でいろいろと歴史的な背景とか、文化的な側面も含めて御意見いただいていると思う。関係者ということで、報効会さんや佐嘉神社さんがあったりしているわけですけども、その関係者の 1 人で、県というのものもあるかと思っていますけれど、この将来像は、松原公園ということで佐賀市さんが整備をされようとしているのであれば、佐賀市さんの思いとしてもこういうものを自分たちとしては実現したいというのがあってしかるべきではないかなと思う。ある意味、ここで出た意見が全てではなくて、例えばその市議会で意見が出たり、あるいは市民の方から意見が出て、ここをどういうふうにしたらいかなというのがあって、初めてこの松原公園というものが実現されるのではないかと考えていて、そういう意味で、逆に先ほど基本理念の話も出たけれど、ここに書いてある部分は今までの議論の中で出てきた意見を踏まえて整理されたものと思っていますので、そういったもの等を含めて逆に将来像のこの空欄のところは佐賀市としてはこういう思いを込めて実現したいということで、逆に案を示していただいたほうがいいのではないかなと。我々委員が言ったからこういうので行きましようということではちょっと違うんじゃないかと思っています、そこをぜひお願いできればと思います。

もう 1 つ、資料 1-2 の基本的なスキームのところには関係者の方々がこういう役割がありますということを書いていただいています、佐賀県については県有地の活用検討とありましたけれども、先ほど甲斐部長から話がありましたように、県としては今何かに使おうという案は持ち合わせていませんので、逆に佐賀市さんがこういうことで公園整備をしたい。そのときに県が持っている土地についてはこういうふうにしたいということをしつかり言っていただくことが一番大事なのかなという気がしています。何かそういう部分が

少し、視点が抜けているというか、欠けているのではないかという気がしておりますので、そういった点を踏まえて進めていただけるとありがたいなと思っております。私からは以上です。

●牛島座長

ありがとうございます。今御意見をいただきましたが、座長の立場からいろいろ言うのはどうかと思いますので、事務局のほうで今の疑問に近いと思いますけども、答えられるところがあればお話しいただければと思いますけども。

●事務局

御意見ありがとうございます。2点あったかと思いますが、資料1-2の基本的なスキームのところ、ここは県有地の活用検討をその役割として書かせていただいておりますけれども、こういった将来像を決めた中で県のほうでぜひお考えくださいと言ったことではありません。当然来年度に上のほうにも書いておりますけれども、今後将来像をまとめていった中で、イメージを具体化していった基本構想をつくりたいと思っております。その中で市としても懇話会の御意見を踏まえたうえで、こういったことをしたいけれどもいかがでしょうかというふうな流れになるかと思っております。県の方で考えてくださいということではありません。

将来像についてですけれども、平成23年の第1期整備のときは、まずその徴古館さんを表に出したいと、前のほうに店舗があったり見えないような状況になっていましたので、それと正面性を確保したい。徴古館の良さをお伝えできるような整備をしたいという思いから始まっております。

その後は、それ以外のところはどのようにいこうかということになると、やはりその関係者の方々と個別にお話をすると、なかなか上手くいかなかったというような経緯がございます。ですので、やはり皆さん一堂に会していただいて、それから有識者の方々、中尾社長はじめ中尾先生に入っていていただいて、そして皆さんと一緒に、市も一緒に入りながら白井副市長も委員に入っていていただきながら決めていったうえで、そして整備については市が主体的にやっていきたいと考えております。将来像につきましても今回意見をいただいて、それを取りまとめるというのは佐賀市がやっていきたいと思っておりますし、次回そういった内容もお示しできればと思っております。

●白井委員

もともと県有地は、鍋島さんが佐賀県には図書館がないから図書館をつくろう、名前も鍋島図書館とせずに、いずれは譲っていいからということで佐賀図書館としよう、というふうにお考えいただいて、最終的には県にお譲りになられた建物と土地があそこにあったわけです。そのあと紆余曲折を経て、図書館を新たに別の場所に移転して建てたので土地だけが残っているということで、大事な場所、貴重な場所。市民あるいは県民が、何かここで想いを遂げるようなそういう場所でもあってほしいなと気づきがあったり、大切な場所だとするとやっぱり全体のトータルで、やっぱりここは何とかしていきなっていくという思いがありまして、そういう思いもあって市としても、一汗二汗かきたいなと思っております。

今は砂利が敷かれて鎖があって駐車場になっていますけれどせっかくいいところにあるので、松原公園全体が今、座長が言いましたような、市としても意思を固めたものをまた次回お示しするとして、今後どういう形でやっていきたいからぜひ協力をお願いしたいということでもたお願いしていきたいと思います。一緒に考えさせてもらって、どのように使っていくのか、主体をどういうふうにしていくのかという、その辺りから相談させてもらって、良いものをここで議論いただいたようなものがちゃんと実現できるようにしていきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

●鍋島委員

当事者にいる者としては、徴古館って何かなって言ったら何か守るとか学ぶとか、ARKSはどういう意図でお作りになったのか、関わっていないから存じ上げないけど、でき上がって以降夜あそこで映画をしていたり、そういうところを垣間見ると、あそこのテーマは「集う」みたいなテーマになるのかな。神社は「祈る」。徴古館は中尾先生たちなんかとちょっと似たような、学んだり、残したり、引き継いだり。「このピンクのところ、これ何で赤くなっているの」って言ったら、取りあえず選ぶ例らしいです。キーワードを選ぶ例で、宮司もそうだと思うけれど我々がいるあの辺りを、さっき實松委員がおっしゃったみたいに市民や県民、直接的には市役所の皆さんとか、あそこを今後の将来像でキーワード、ARKSが恐らく「集う」であるだとするとこっちは何だろう、というのはすごく興味があって、なかなか自分たちでは逆に奇想にくい部分なので、何か皆さんの感覚をこの際お伺いしてみたいなを興味はあるところです。

●事務局

本当に皆さんがいろんなお考えをお持ちであり、また令和3年から約1年半近くかけていろんな話をしてきているわけですから、やっぱりその部分を生かしたいということもありまして、最初から佐賀市が、實松委員さんが言われたように案を出してしまうということではなくて、案が出てしまうとどうしてもそこに縛られてしまうので、そうではなくって先ほど鍋島委員から言われたように「キーワード」、今まで皆さんから出てきたキーワードをお出しして、最終的にそれをどうつなげていくかとかいうのは、今日皆さんからいただいた御意見をもとに、次回のときに一つにまとめられないかもしれないので、複数案を出すのかもしれないけれども、今日はここに書いてあるキーワードでもいいですし、それ以外のことでもいいですし、こういうワードはぜひ入れてほしい、こういう思いはぜひ将来像に含めてほしいというところだけでもいいので、最初から最後まで一つの文章にしてくださいというのがとてもじゃないけどこの場では出せないと思いますので、ワードの部分でここは欠かせない、こういうのはどうだろうかというような御意見をいただけたら、次回のときに佐賀市で取りまとめをさせていただきたいということだと思っております。よろしくお願いたします。

●牛島座長

事務局に私の役割をしていただきましたけども、前半はここでちょっと休憩に入りたいと思います。

●牛島座長

今一度確認させてもらいたいと思います。松原公園周辺の将来像と理想像というふうなことになるかもしれませんが、これを次回取りまとめるに当たりまして、その整備をどのようにといったところのイメージを持つことが大事だろうというふうに思います。そこで皆様にお配りしている資料 2 を御覧いただきたいのですが、右のほうの青い囲みのところにあります整備イメージとして3つ書かれています。

- ・ 徴古館～松原神社の東西軸だけでなく、貫通道路～松原川通りの南北の動線も意識
- ・ 鍋島報効会、神社、県、市が保有する貴重な歴史資料の公開・活用の場、徴古館との連携
- ・ 松原川沿い（水辺空間）の整備、神社との自由な往来、仲見世など

そういったところで一つのイメージをこのように、言葉で表示をしているところですので、このあたりも皆さんの頭のほうに描いていただいて御意見をいただければとっております。何かあれば、前半以上にいろいろ言っていたいただければと思います。

●佐野委員

すみません当事者といいましょうかそういった立場ですけれども、先ほど鍋島ご当主から御説明がありましたけれども、恥ずかしい話ですけども、いわゆるお宝的なものの価値というのが神社ではよく分かりません。どれがお宝でどれが神社としての装飾物なのかというところも含めて、そこら辺の価値的なものが全くわからないという状態ですので、ぜひともこれはすごい価値があるものだよとか、そういうことをちゃんとしていただこうと、分からないことはちゃんと専門家をお願いをしてということで、大変申し訳ないですが報効会さんにお声がけをさせていただいたというところでありました。

神社としてはそういうお宝というのがいくらどういう形で神社の中にあるか、どういうものがあるかというのはわからないけども、今までは割と神社として、これはおれたちのもの、神社は神社。お前たちは入ってくるなというように見受けられたかもわかりませんが、今は皆さんと一緒に共有していただきたい。神社というのは地域の皆さんの支えなくしては存続していけないというのが神社でありますので、ぜひ皆さんに自由に行き来していただきたいし、そして、神社の中にあるものも必要なものがあれば、せっかくだったら市民の皆様方に自分たちの歴史の一部としての共有をしていただきたいなというところで考えております。

どうしても今までの佐嘉神社は別格官幣社で昭和天皇様がおつくりになってというところをどんと表に掲げておったような感じがするけども、我々はそうではなくて、やっぱり市民の皆さんにとって、我が町のお殿様の御静まりになる神社ではないか。親しみを持ってお殿様のところに顔出しに行こうというような気持ちで、お参りいただければというような神社を目指しておるというところです。神社としてのイメージです。皆さん方もぜひとも今までのような神社っていうので構えていただくとか、神社だから絶対に触れてはいけない部分というような感覚ではなくて、もう少し、せっかくこの場所にあるから、うまく利用活用さしてもらえればなというような、そういう形でおっしゃっていただければ、我々と

してはありがたいなというふうに思います。

もう一つ神社としてすごく考えているのは、先ほど鍋島委員もおっしゃられましたけども、佐嘉神社も大事だけど、松原神社のほうが歴史が古い。これはいろんな方々、お年寄りの方々とお話をさせていただくと、ほとんどの方が知らなかったと言われます。松原神社のほうが佐嘉神社も前からずっとあるんですよと言うと、それは全然聞いたことがなかったと。鍋島委員といろいろお話をしている中で、確かに今までは佐嘉神社は昭和天皇様が云々とかいうところで、どうしてもそこをメインに考えがちですけれども、やっぱりその松原神社の継承なくして、佐嘉神社の盛り上がりはないのかなというふうにすごく考え方が変わってきております。佐嘉神社から松原神社にどうやって人を流そうかというところを今神社では考えています。いろいろ看板を立てて、こちらに松原神社がありますよと。松原神社というのはどういう御社ですよということをまず皆さん方に知っていただきたいなというところで、どういうことができるかな、神社として何をしなきゃいけないかというのを今、若い神主と話をしながらしておるところで、その一つとして松原川沿いというところはすごく外せない部分になってくるのではないのかというふうに思っております。神社としては先ほど言いましたけども、市の皆さん方と一緒にその神社の敷地内の松原川沿いの中を、いわゆる神社本殿の裏側を一緒に歩いていただけたけれど、とても我々としては人には見せられないような恥ずかしいぐらいに汚いところです。廃材とかがいっぱい置いてある、いわゆるもう神社のバックヤードができあがってしまっている。バックヤードだけど、松原川沿いにそれが全部見えてしまっているというところで、これをしっかりと綺麗にして整備をする必要があるなというのは神社としてすごく思っております。それによって、松原川に沿っていろいろお店やマンションもあったり住まわれている方もいっぱいおられるけれど、あの辺の方々が神社のすぐ後ろにある、神社のすぐ近くに住んでいる、ここも門前だという意識を持ってもらえるように、そういうような神社としてのイメージというか整備というのはこれからしていかなきゃいけないなと思っております。皆様方も将来像とを考えていただくときに、ぜひよろしければ、もう少しフランクというか、やわらかい雰囲気ですら神社というのをとらえていただければ、もちろん宗教法人として出来ること出来ないことはもちろんあるけれども、皆さん方と屈託なくいろんな意見を出し合えることができればありがたいなというのが神社としての立場でございます。

●牛島座長

ありがとうございます。気持ちを込めてお話いただいたので、感ずることがあったと思います。ほかにぜひともあればいただきたいと思いますが。

●鍋島委員

もうちょっと経ったら佐賀城下ひなまつりが2月11日から始まりますけど、ちょっと言いにくい話ですが笑い話として。従前、ひなまつりが柳町の歴史民俗館からどこかを經由して徴古館という動線で当初始まりました頃に、ひなまつりのお客様が神社の敷地内を通るべからず、という札までは立っていなかったけれども、通ってはならんぞというようなかけ違いがどこかで発生をして、佐野宮司たちのほうは、何か昔そんなことを言っていた人も言

いましたかな、くらいだったけれども、市役所、観光協会のほうではずっとそのことを長年心にかけて、それは当然行政から見れば私有地、しかも宗教法人の中なので当然気をつけなくてはならない部分として残っておられたらしいという話を、去年宮司さんの耳に入って、何のことない、どうぞ通ってくださいという笑い話みたいなお話をされて、今年はせっかく通っていただくなら、おりをつくってソフトクリームでも食べていただこうとか、お茶会をしようやっていたら、そんなところからつくり直して、確認し合っという意味で、言葉というか漢字がでないですけれども、中尾先生に教えていただきながら代々受け継いでいく。神社もそうですけど、受け継いでいく。それを伝えていく。そういうのを何という言葉で表したらいいのか分からない。

●中尾友香梨委員

継承。

●鍋島委員

だからその硬いですよね。市民の皆さんにすんなり飲み込んでいただくには硬いですね。何かいいワードはないかな。

●牛島座長

ありがとうございました。ひな祭りと言われ私も一言と思うんですけど、実は鍋島理事長がいろいろ仲立ちもしていただいて、今回のひなまつりについては佐嘉神社さんも今まで以上に関わっていただくというような形になりました。この地図で見られても分かると思うけれど、柳町からの歴史民俗館のエリアと徴古館さらには本丸歴史館にもお世話になっていますが、その間のよく動線と言いますけども、人の動きとともに、気持ちのつながりといいますか、そのところが少し今までは弱かったのではないかとということで、神社さんにも関わっていただくことで気持ちのつながりといいますか、区域をつなげていくというふうに今度はしていきたいということで、今準備をしていますのでPRタイムになりますけど2月11日から始めます。ぜひとも皆様足を運んでいただければと思います。

ということで松原エリアというものはそういった部分でも、人の動きのみならず、目に見えない部分でのつながりをつくっていくというふうなところの一つのきっかけになればなというふうな気がしております。

座長でありながら、少し余分に話しました。何かあればいただきたいと思いますが、先ほど精神を伝えていくというふうなところで中尾先生のほうにも言っていたので、何かこの将来像について、御意見ありますでしょうか。

●中尾友香梨委員

ありがとうございます。

佐嘉神社にも宝がいっぱいあるということをお聞きしたので、できればぜひ将来的にはそういうのを市民の方々にも自由に見える形にできればというふうに思います。そうすれば今話題に出た動線をつくったうえで、ただ神社に参拝するだけではなく、展示も見るができる、そういう形に出来ないかなと思いました。すぐ隣に徴古館があって、徴古館には鍋島家の宝物がたくさんありますので、将来像になるかどうか分からないですけれ

ど、あのエリアに行くと佐賀の歴史・文化、もしくは、鍋島家の歴史・文化、佐嘉神社の歴史・文化などがたっぷり体験でき、実際に見ることができる。そういうイメージをつくり上げるのも一つのイメージ像かなというふうに思います。

お堀を挟んですぐ近くに県立図書館もありますので、ここで体験して、興味を持ったらまた県立図書館に足を運んで、より詳細に市民の方が歴史を知ることでもできるのではないかなというふうに思います。これからは見せることが非常に大事だと思います。ただ持っているだけでは実感が沸かないので、地域の皆さんには、やはりオープンに見せて体験してもらうことを一つのキーワードにしてもいいかなというふうに思ったところです。以上です。

●牛島座長

格調高いというところでの御発言が以前ありました。大事なものを今に、というふうなところでのこともあったと思いますが、続いて中尾社長いかがでしょうか。

●中尾清一郎委員

この将来像のキーワードを幾つか候補を出していただいととてもわかりやすいかと思います。また鍋島理事長に怒られますけど、継承も難しいけど、佐嘉神社、松原神社は「祈り」と言う言葉と「顕彰」というイメージも入れていただきたいなど。直茂公と十代直正公を顕彰するための御社。特に佐嘉神社はそういうこともあるので、顕彰というキーワードも一つ入れていただくとありがたいなと思います。

●牛島座長

ありがとうございました。どんどん行きたいと思っていますが、御発言の中に大事な場所ということは何度か言われています白井委員さん、いかがでしょうか。

●白井委員

先ほど県の2人の委員から御意見をいただきまして、県と市とで協調しながら、サンライズパークから佐賀城本丸までのこの南北軸を強化しようとして、この松原エリアも同じようにまた協調させてもらいながら市のほうもしっかりとしたイメージを作って、また県有地についても御相談をしながら、上手く活用できるようにしていきたいと思っています。今回いろいろ御意見をいただきましたので、事務局と話をしながら将来像につきましても何案かをお出しすることになると思いますけれど、また次回もよろしくお願ひしたいと思います。

●牛島座長

よろしかったら甲斐委員か實松委員から何か感想も含めて。

●實松委員

先ほど「継承」という言葉がでましたが、佐嘉神社・松原神社の歴史を考えるとその言葉いいなあと思ってはいたんですけど、先ほどちょっと硬いという話だったので、発言するかどうか実は迷ってました。「祈り」という話も鍋島理事長からありましたけども、その言葉もいいなあと思って、上手く事務局で組合せると言うけれども、そういったものもうまく組み合わせるとやっぱり何か、普通の一県民、市民的な感じからすると佐賀の歴史が感じられると思いますか、そういったわかりやすい言葉がちょっとあるといいかなというのを思っ

た次第です。

もう一つ思ったのは、誇れる場所、我々佐賀県民、佐賀市民が誇れる場所がそこなんだ、ということであってもいいのかなと思いました。

●牛島座長

ありがとうございました。これは個人の感じ方でも何でもいいのでよろしかったら。

●甲斐委員

意見が出尽くして、皆さんと一緒にすけれど、私も「祈り」というのはいいなあと思う。神社だけでなく人としての気持ちに何か願うとか祈るとか、そういうのも大切な心の糧になるのかなと、素敵な言葉だなと聞いておりました。確かに歴史があるということで誇りに思っている、そういうつながり、本当に心が勇気づけられるような、豊かになるようなところでまとめていただけると、より良いなというふうに個人的に思っております。

●中尾友香梨委員

一つだけ補足をさせていただきたいんですけれども、これは随分先の話になるかもしれませんが、もしここを歴史・文化を体験できるそういうエリアにするのであれば、どこかに今、個人宅が持っている書画や骨董、焼き物などを展示できるスペースをつくってもいいのかなというふうに思います。と申し上げるのは、最近よく市民の方からお問合せを受けるんですが、年配の方々が書画や先祖代々受け継いできた書画や史料を持っているけれども、子どもの世代がそれを相続することを拒否しているそうです。価値がわからないのと、どう管理していいかわからないので相続を拒否しているけれども、その親世代の年配の方はそれでもやっぱり手放したくはない。

私はそれこそ徴古館とか本丸歴史館とかに寄贈することを勧めるけれど、でもまだそこまで踏み切りがつかないので、どこかで皆さんに見てもらいたい、そういう思いが結構強い方が多くいらっしゃいます。宝自慢ではないですけど、個人個人が定期的に持ち寄って、それぞれ自分が持っている宝を持ってきて、自由に展示して多くの人に見てもらおうというスペースも一つあっていいのかなというふうに思った次第です。以上です。

●鍋島委員

ひなまつりを今年で23年ほどやって、その間に市長さんが3人おかわりになられて、知事さんも2人、3人かな。ひなまつりのことはずっとぶつぶつ実行委員でもないのに、あちこちケチをつけながら20年過ごしてきました、自分でも何でこんなにひなまつりにいいおっさんが関わるのかと。どういうふうに説明したらいいかわからないですけど今、甲斐部長から「祈り」宗教的ではないけど祈り願。ちょうどこのひなまつりが始まったのは佐賀市さんのほうが歴史民俗館の整備を、多分平成9年ぐらいから段階を追ってやられて、形が見えてきたところで歴史民俗館も活用してみたいのがリンクしたのかな。うちも相続関係が終わって、どっと九州のほうに佐賀のほうに運ばしてもらったものの中に、たまたまお人形がある程度残っていた。偶然が重なったのかな。木下市長さんのところでピックアップをされて、観光協会とつなげていくような形で行政主導で。その頃は中国からのインバウンドなんかもどんどん増えてくるような時代で、県のほうもセールスをしにタイまで行かれて

いるようなぐらいでしたから、非常に観光・地域振興みたいなことに主眼を添えた行政主導的なイベントづくりでした。当初から言っていたけれど、行政主導でやったときになかなか地域の方たちにどう盛り上がりを転化していくかがこれから難しいと思う。20年かかって正直言ってまだ全然出来てないのかな。僕はとやかく言う立場ではないけど何か悲しく不満に思ったのはその部分なのかな。ひなまつりのいろんな云われとか聞いていると、こんなにいっぱいゲン担ぎがあって、どれもこれも子孫繁栄なのか、子どもたちの節句自体が全部そうだと思うけど、江戸時代に制度化までして、この日は禊げ、願えという部分が、今例えば少子化であるとかいろんなことがある中で、変則的に市民、県民となりがちの中で、観光・人寄せがしたかったのか、その市民の皆さんが今は家庭でも余りひな人形を飾らないとか、今子どもたちが置かれている状況を見てびっくりするようなニュースを時々聞きながら暮らしていますけれども、何かその部分の豊かさというものにこういうことを行政が手掛ける中で、20年かけて、今そういう部分は我が国だけじゃなくてすごく痩せていっているような気がしないでもない時代の中で、こういうものを通して地域の皆さんが、何かしらの形で思いを一つにしてくださるようなきっかけ、もしくはそういうもののプッシュになっていけば、逆に今度訪れる方たちにとっても、私たちのこの町は佐賀に行ったら人の心の豊かなところだったなっていうところに本来つなげていくのが目的、見えない目的なのかなというところで、何かそこはただ難しい。どうやったらそうなるのか、みんなにそれが伝染するのか。松原のこのエリアも恐らく特効薬的な効果はないのかもしれないけれど、そういう目に見えない部分を少なからず失わないように、人々の集うまちとして失わないように自分たちのアイデンティティも含めて、守り伝え、継承をしていくという装置だと思う。特攻性はないのかもしれないけれども、白井委員によく言われましたけど、本当に将来を見通して、よく昔の方は、よくどこまで考えてくださっているなというのがあるので、それに及ばないまでも、我々も本当に唸るだけ唸っておいていかないと、あっという間に廃墟になってしまう、そんなことを思いながら、皆様方とここまで過ごさせていただいております。すいません、感想みたいなもので。

●牛島座長

ありがとうございました。最後に理事長につなぎと申しながら、まとめていただいたような感じでありますけども、そろそろ時間ですのでこの辺で終了したいというふうに思います。

ずっとお話をお伺いしまして感じたのは、印象に残ったのが、目に見えない心の部分の豊かさといいますか「祈り」というところで拠り所というのを、皆さんやはり何か求めてらっしゃるような気がいたしました。恐らくは時代を重ねて今につながる、そしてこの先を、と考えたときに祈りの場所であり、大切な価値のあるものをアーカイブし顕彰するといった、この松原一帯をどのように一体化していくということが大事なような気がいたしました。そのキーワードっていうものとなるのが共有し連携していくといった話が多かったような気がいたします。いかにして次の時代につながるということで次の令和5年度以降につながるのじゃなかろうかなと思います。そこで大事なのが市民、これは県民も含めてだと思えますし、

多くの方々への発信、どのようにわかりやすく伝えていくのか、この誇らしい先人が残してくれたものを、というふうなところも恐らくあるように感じたところです。

それでは、事務局のほうに進行をお返ししたいと思います。

●事務局

牛島座長ありがとうございました。

今回頂戴した意見をもとに、次回が最終となりますので、将来像の素案とあともう一つ松原公園の整備イメージ、こちらの共有をしたいと思っております。

次回の懇話会につきましては、改めて日程調整をさせていただきます。

全体を通して、また委員の皆様から改めて御意見等ございませんでしょうか。それでは本日の懇話会はこれで終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。